

## 生きる力を育む書写教育のあり方

### —相手意識・目的意識をもって伝え合う力の育成をめざして—

#### 1. 設定理由

国語科の言語活動や、学校生活、日常生活に生きる書写として、さまざまな場面において相手意識・目的意識をもって書くことで「伝え合う力」を育成していくことが重要である。

そのために、伝える相手を明確にしたり、教具の選定を工夫したり、他教科との連携を図ったりすることで、子どもたちは書くことを純粋に楽しむ気持ちをもてるのではないかと、また、生涯を通して書くことを楽しみ、豊かなコミュニケーションを育むためには、「文字」を身近に感じられる経験をさせることが大切ではないかと考えた。これらから、相手意識・目的意識をもった活動、身近に使える教具の使用による伝え合う力の向上が、「生きる力」を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

#### 2. 研究仮説

仮説1 伝える相手を明確にしたり、教具の選定を工夫したりすれば、書くことを楽しみ、進んで書く意欲をもち、とりくむことができるだろう。（関心・意欲）

仮説2 他教科との連携を図り、書写の学習を活用する場面を設けることで、書写への意識が高まり、学習したことを日常での文字を書く活動にも生かすことができるだろう。（日常化）

#### 3. 研究内容

①文字の大きさと行の中心「俳句を書く」（小学校第3学年）

②三年間の学習の成果を生かそう「自分を励ます言葉の色紙づくり」（中学校第3学年）

#### 4. 結論

- 相手意識・目的意識をもつことで、自己の目標が定まり、書くことに対して意欲的にとりくむ姿が見られた。相手に自分の作品をプレゼントすることにより、よりよい文字を書きたいという意欲が高まった。相手意識をもって書き、自分の作品を大勢の他者が評価してくれることにより、文字を書く楽しさがわかり、書く意欲が高まった。また、理解したことをどう使っていくか考え、表現力が高まっていく児童も見られた。
- 他教科と関連を図ること、日常的に無理なく使用できる教具を使うことで児童の負担感・嫌悪感がなくなり、楽しみながら学習できることがわかった。
- 生徒たちは、筆記用具の特徴を生かしながら書くことを学び、背景との調和や書体の選択、字形などに気をつけながら自分たちで考えてとりくむことができた。

印旛支部

佐倉市立白銀小学校

関 亮子

佐倉市立白井南中学校

佐々木 育美

# 研究主題 生きる力を育む書写教育のあり方

—相手意識・目的意識をもって伝え合う力の育成をめざして—

発表者 佐倉市立白銀小学校 関 亮子  
佐倉市立臼井南中学校 佐々木育美

## I 研究主題について

学習指導要領では、国語科の目標を次のように示している。

「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」

書写について、小・中学校ともに国語科の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(2)に位置づけられている。そのねらいは、国語の基礎能力として、文字を正確に理解し表現する能力を養うとともに、文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字を尊重する態度を育てることである。具体的には、小学校では文字を書く基礎になる姿勢、鉛筆や筆の持ち方、点画や一文字の書き方から始め、目的に応じた書き方へと指導し、日常生活や学習に生かせる書写の能力を育成することとしている。さらに、中学書写では、楷書や行書の特徴をふまえ、書写を選択して書くことができるようになることをめざしている。

国語科書写においては、この目標の実現に向けて、技能・能力を駆使し、伝え合う力としての「生きる力」の定着を図ることが、その目標であると考えられる。

「生きる力」の育成のためにも、「日本の伝統と文化の尊重」が強調されているのは周知の通りである。その原点ともいえるのは「文字」を正しく書くことであり、この書写の基礎・基本を身に付けさせることが大切なのは、言うまでもない。そして、文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字文化を継承していく上でも重要であると考えられる。

新学習指導要領では、国語科の目標が以下のように示されている。

「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」

新学習指導要領では、これからの国語科がめざすものとして、「伝え合う力」がいつそう重視されている。書写の学習は、他教科との関連が不可欠である。すべての教科は「書く」活動に支えられており、その根幹を担っているのが国語科「書写」になる。日々の書く活動は、自身の思考を深めたり、記録したりする以外にも相手に伝えるという役割を担っている。

国語科の言語活動や、学校生活、日常生活に生きる書写として、さまざまな場面において相手意識・目的意識をもって書くことで「伝え合う力」を育成していきたい。

伝える相手を明確にしたり、教具の選定を工夫したり、他教科との連携を図ったりすることで、書くことを純粋に楽しむ気持ちをもてるようにしたい。また、生涯を通して書くことを楽しみ、豊かなコミュニケーションを育むために、「文字」を身近に感じられるようにしたい。

これらから、相手意識・目的意識をもった活動、身近に使える教具の使用による伝え合う力の向上が、「生きる力」を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

## II 研究仮説

- (1) 伝える相手を明確にしたり、教具の選定を工夫したりすれば、書くことを楽しみ、進んで書く意欲をもち、とりくむことができるだろう。(関心・意欲)  
＜手だて＞国語科・総合的な学習の時間と関連して、日常的に簡単に扱える教具「筆ペン」を使用して作品を作成する。→小学校での実践
- (2) 他教科との連携を図り、書写の学習を活用する場面を設けることで、書写への意識が高まり、学習したことを日常での文字を書く活動にも生かすことができるだろう。  
(書写の日常化)  
＜手だて＞他教科の学習活動と連携して、書写の学習を設定する。→中学校での実践

## III 研究の実際

### 実践1 (小学校)

#### 第3学年 国語科書写指導案

指導者 佐倉市立白銀小学校 関 亮子

1 単元名 文字の大きさと行の中心 「俳句を書く」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、新国語科学習指導要領の目標〔知識及び技能〕(3)【我が国の言語文化に関する事項】エ 書写に関する事項「(ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。(ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。」を受けて設定したものである。

本単元では、漢字や仮名の大きさや、行の中心に気をつけて、配列を整えて書くことができるように指導するとともに、意欲的に書く気持ちを育てていきたい。また、相手意識をもって丁寧に書くことを意識づけたい。

日本で長い間親しまれてきた俳句を学習したあとに、自分で俳句を作り、その俳句を筆ペンを使用して作品として仕上げる活動を行う。新学習指導要領では、第1・2学年の学習に水書筆等を使用して学習することが明記された。第3学年で筆ペンを使って学習することは、第1・2学年での硬筆学習から第3学年の毛筆学習への移行という意味で、効果的ではないかと考える。

(2) 児童の実態 (4月 男子11名、女子20名 合計31名)

1. 毛筆の学習が始まることは楽しみですか。

とても 29名 まあまあ 2名 あまり 0名 全然 0名

2. 書写の学習をして「役に立った」「よかった」と思うのは、どんな時ですか。

・文字の形がよくなったとき。(28名 93%)

・ノートにうまく書くことができたとき。(27名 87%)

・ちょうどよい大きさと文字を書くことができたとき。(25名 80%)

3. 文字を書くのがむずかしいと思うときはどんなときですか。
- ・行がまっすぐになるように書くとき。(21名 67%)
  - ・文字の大きさをそろえて書くとき。(18名 58%)
  - ・書写の作品を書くとき。(10名 32%)
  - ・掲示物を書くとき。(8名 25%)
4. 文字を書いて、人に喜んでもらったり、自分が嬉しかったりした経験はありますか。
- はい 31名    いいえ 0名
- ・休んだお友だちに連絡カードを書いてあげたら次の日に「ありがとう」と言われた。
  - ・妹に文字を書いてあげたら喜んでくれた。
  - ・友だちからお手紙をもらってうれしかった。
  - ・毎年の年賀状が楽しみ。
  - ・おじいちゃんやおばあちゃんにはがきを書いたら喜んでくれた。
  - ・去年の生活科で栄養士の先生にクラスのみんなでメッセージカードを書いたら喜んでくれた。
  - ・転校してしまったHちゃんにみんなでお手紙を書いたら喜んでくれた。
  - ・先生にお手紙をあげたら喜んでくれた。

### (3) 指導観

実態調査から、児童は今年から始まる毛筆の学習をととても楽しみにしていることがわかる。第2学年までの書写の学習が日常に生かされていると考えている児童が多く、特に「文字の形がよくなったとき」「ノートにうまく書けたとき」に、約9割の児童が書写の学習が「役に立った」「よかった」と感じている。

文字を書いて人に喜んでもらったり、自分が嬉しかったりする経験をした児童は全員で、その経験を具体的に答えた児童が多かった。

新学習指導要領では、第1学年及び第2学年で水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなど、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な工夫をすることが示されている。水書用筆等を使用する指導は、第3学年から始まる毛筆を使用する書写の指導への移行を円滑にすることにもつながる。第2学年までの水書用筆の使用を受けて、筆ペンを取り入れることで硬筆と毛筆の関連的な指導ができると考えた。

実態調査から「行がまっすぐになるように書く」ことや「文字の大きさをそろえて書く」ことが難しいと感じている児童が半数以上いる。本時では、配置・文字の大きさ・文字の中心に気を付けて書けるように指導をしたい。その際、文字の大きさや文字の中心について話し合わせ、子どもたちでポイントに気づくように支援していきたい。

また、国語科で学習したことをもとに筆ペンを使用して俳句を短冊に書き、校内ラウンジに掲示し、友だち・保護者・地域の方に見てもらうことを伝える。国語科の学習のゴールに、書写の学習を生かした活動を取り入れることで、毛筆のよさを味わわせるとともに、書写の日常化をはかりたい。

白銀小学校は地域コミュニティースクールとして開校15年目を迎える。地域の方が毎日登下校の見守りや校内パトロール・校内の環境整備・ビオトープの維持管理・里山の整備などを行ってくれているので、自分たちの身近に感じられる存在となっている。その中で、特に3学年の実践では、普段お世話になっている地域環境ボランティアの方に「ありがとう俳句」を作成し、プレゼントすることを伝え、相手意識・目的意識をもって活動していきたい。

また、文字によって、気持ちを伝え合うことに喜びを感じ、学習したことを日常での文字を書く活動にも生かせるように指導していきたい。

### 3 単元の目標

- ・筆ペンのよさを生かして意欲的に書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・漢字や仮名の大きさや行の中心を理解して、気をつけて書くことができる。(知識・技能)
- ・書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていこうとする意欲をもつことができる。 (書写の日常化)

### 4 指導計画 (3時間扱い)

学 習 活 動	時配
○俳句の特徴を知り、俳句を作る。	1 (国語科1)
○俳句を筆ペンを使って書く。	1 (本時①)
○環境ボランティア交流会で自分の俳句を発表し、地域の方・保護者の方に「ありがとう俳句」をプレゼントする。	1 (本時②)

### 5 本時①の指導

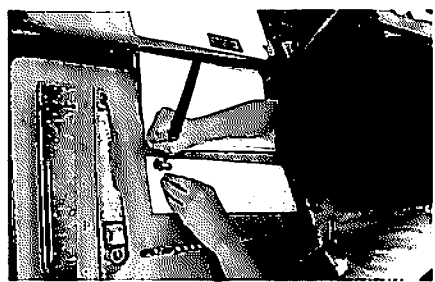
#### (1) 目標

- ・漢字や仮名の大きさや行の中心を理解して、気をつけて書くことができる。(知識・技能)

#### (2) 展開 (2/3)

時配	学習活動と内容	指導・支援 ○評価	資料
3	1. 本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を確認する。</li> <li>・自分の考えた俳句を短冊に書くことを伝える。</li> <li>・今回作成した俳句・または次回作成した俳句を、地域の方へプレゼントすることを伝える。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">筆ペンを使ってバランスよく俳句を書こう。</div>			
7	2. 短冊への書き方を理解する。 ・俳句の文字数を考え、配置・バランスを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き方の例を提示後、俳句をどのように短冊に配置するかを考える時間をとる。</li> <li>・近くの席の児童と話し合わせる。</li> </ul>	見本例 (黒板掲示)
10	3. 短冊へ鉛筆で下書きをする。 ・書く際に気をつけることを確認する。 ・鉛筆で書いたものを見直し、必要があれば書き直す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置・文字の大きさ・文字の中心に気を付けて書くことを伝える。</li> <li>・気持ちが伝わるように、ていねいに書くことを確認する。</li> </ul>	短冊

- 10 4. 筆ペンで書く。
- ・書く際に気をつけることを確認する。
  - ・試し書きをしてから短冊に書く。
  - ・書き終わったら、自分の短冊を見て、配置・バランス・文字の中心に気をつけて書けたか振り返る。



- ・机間指導をしながら、筆ペンを使用する際に注意することを確認する。(強く押すと墨汁が出てくることなど)



- 12 5. 鑑賞会を行う。
- ・お互いの作品のよいところについて意見を交換する。
  - ・自己評価をする。



- ・お互いの作品のよいところはどこか、配置・中心に意識して意見を交換できるように助言する。
- バランスよく俳句を書くことができたか。
- (知識・技能/作品・ふり回り)

- 3 6. 感想発表をし、次回のめあてを知る。

- ・今回作成した俳句・または次回作成した俳句を、地域の方へプレゼントすることを伝える。

6 本時②の指導

(1) 目標

- ・書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていこうとする意欲をもつことができる。
- (書写の日常化)

(2) 展開 (3/3)

時配	学習活動と内容	指導・支援 ○評価	資料
5	1. 本時の学習内容を知る。	・地域の方へ向けて発表し、俳句をプレゼントするという目的意識をもたせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">俳句を書いた短冊を地域の方へプレゼントしよう。</div>			
5	2. 俳句に込めた思いが伝わるような	・どのような思いで「ありがとう俳句	ありがと

プレゼントの仕方を考える。

- 15 3. 地域ボランティア交流会で自分の作品について全体の前で発表する。
- ・文字を書く際に気をつけたこと、どのような思いでこの俳句を作ったかを発表する。



句」を作ったのか、思いを説明できるように声かけをする。必要であればノートにまとめられるようにする。

う俳句

ありがとう俳句

- 15 4. 地域の方へプレゼントする。
- ・俳句にこめた思い・日頃からの感謝などを伝える。



- 俳句の発表会を通し、言葉や文字、表現について感想をもつことができる。（書写の日常化／発表会）
- ・地域の方からも感想を言って頂けるように伝える。

ありがとう俳句



- 5 5. 学習のまとめをする。



- ・相手のことを思い、丁寧に文字を書くことの意味を確認する。
- ・それぞれの文字のよさを認め合う。
- ・これからもいろいろな場面で書写での学習を生かしていこうとする意欲をもたせる。

- 1 単元名 身のまわりの多彩な文字に関心を持ち、効果的に文字を書こう  
三年間の学習の成果を生かそう「自分を励ます言葉の色紙づくり」
- 2 単元について

## (1) 単元観

本単元は、新国語科学習指導要領の目標及び「[知識・技能] (3) 【我が国の言語文化に関する事項】エ 書写に関する事項「(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。」を受けて設定したものである。

本単元は、9年間の書写学習で学んだ内容を踏まえたまとめの学習である。文字の大きさ、配列、筆圧、書体の選択など様々な学習内容を、より効果的に活かしたい。また、身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、文字を手書きすることの意義に気づかせたい。そして、主体的な文字の使い手になるきっかけをつくり、高等学校芸術科書道及び、実社会・実生活での文字を書くことへと繋げていきたい。

## (2) 生徒の実態

臼井南中学校は全体的に学習意欲が高く、学校外で書道を習っている生徒も多い。また、書写学習に加え、国語科のとりくみとして日頃から俳句を筆ペンで書き掲示する活動を行っている。

## 《書写に関するアンケート結果》

書写に関するアンケートを第3学年111名に実施した。(4月) 結果は以下の通りである。

## ①筆で文字を書くことは好きですか。

好き：11名 やや好き：27名 あまり好きではない：55名 好きではない：18名

## 好き・やや好きの理由

- ・普段とは違う字が書ける
- ・日本の伝統文化を感じるから
- ・かっこいい字が書けるから
- ・シャーペンやボールペンとは違う書き心地だから
- ・かすれなど字に味が出るから

## あまり好きではない・好きではない理由

- ・手間がかかる、汚れる
- ・普段あまり使わないから
- ・下手だから
- ・難しいから
- ・慣れていないので書きにくい
- ・苦手だから

## ②筆より筆ペンのほうが好きですか。

好き：45名 やや好き：41名 あまり好きではない：19名 好きではない：6名

## ③筆ペンで文字を書くことに慣れたいですか。

そう思う：87名 そう思わない：24名

アンケートの結果から、筆で文字を書くことに対して苦手意識をもった生徒がやや多いことがわかった。また、書写に関心のある生徒は書写への学習意欲は高く、筆ペンへの興味も高いが、書写学習に消極的な生徒は、学習意欲が低いことがわかる。生徒によって書写学習への意識の格差が大きいように感じる。

## (3) 指導観

実態調査の結果から、生徒たちにとって今必要なのは、日頃の書写学習を日常化させることであると考えた。そこで今回は、美術科と連携し、カラー筆ペンで文字を書く活動を取り入れた。第3学年では、これから進路決定を控える自分に向けた「自分を励ます言葉」を選び、その言葉に合う背景を決め、文字をカラー筆ペンで効果的に書く学習を行う。ま



た、黒の筆ペンよりも、生徒の興味をさらに引き出せると考え、筆記具にはカラー筆ペンを使用する。身のまわりから自分で言葉を選び、どのように表現したいのかを自ら考え、筆ペンの特長を生かした手書き文字を楽しむことで、日常生活に書写学習が生かせることを実感させたい。

### 3 単元の目標 (現学習指導要領より)

#### 国語科書写の目標

- ・3年間の学習を生かして、楷書や行書の筆使いなどの習得に自己の課題をもってとりくむことができる。 (関心・意欲・態度)
- ・楷書や行書の筆使いや字形、筆記用具、用紙について考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・楷書や行書の筆使いや字形に気をつけて書くことができる。 (技能)

#### 美術科の目標

- ・自分の思いを大切にし、主体的に制作に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・画面構成、色彩等を考え、表現に適した描画材を選ぶことができる。 (発想や構想の能力)
- ・材料、用具の特性を活かし、技法を工夫して丁寧で美しい作品を仕上げることができる。 (創造的な技能)
- ・自他の作品の良さや、作者の意図、表現の工夫を味わうことができる。 (鑑賞の能力)

### 4 指導計画 (5時間扱い)

学習過程	字配	学習内容と学習活動	評価基準 (評価の観点・評価方法)
第一次	1 美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を励ます色紙づくり」を行うことを知る。</li> <li>・図書室やPCを活用して、自分を励ます言葉を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に響き、元気がでる言葉を探し、決定しようとしている。 (関心・意欲・態度/観察)</li> </ul>
第二次	1 美術 1 書写	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉に合う背景を考える。</li> <li>・色彩の計画を立て、色紙に下書きをする。</li> <li>・言葉の内容に合わせた文字の大きさ、配列、筆圧、書体などを考える。</li> <li>・楷書・行書の字形などに注意しながら練習用紙に練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面構成、色彩、文字の配置などを考えることができる。 (発想・構想の能力/下書き)</li> <li>・3年間の学習を生かして、楷書や行書の筆使いなどの習得に自己の課題をもってとりくむことができる。 (関・意・態/観察・用紙)</li> <li>・楷書や行書の筆使いや字形、筆記用具、用紙について考えることができる。 (思考・判断・表現/観察・用紙)</li> </ul>
第三次	1 書写 美術 本時 (4/5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターカラー、水彩絵の具、色鉛筆で背景をぬる。</li> <li>・カラー筆ペンで文字を書く。</li> <li>・色紙を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の特性を生かし、技法を工夫して作品を仕上げることができる。 (創造的な技能/作品)</li> <li>・楷書や行書の筆使いや字形に気をつけて書くことができる。 (技能/作品)</li> </ul>

第四次	1 美術	・作品に込めた思いを伝えあい、相互の作品を鑑賞し合う。	・自他の作品の良さや、作者の意図、表現の工夫を味わうことができる。 (鑑賞の能力/プリント)
-----	---------	-----------------------------	---

5 本時の指導

(1) 目標

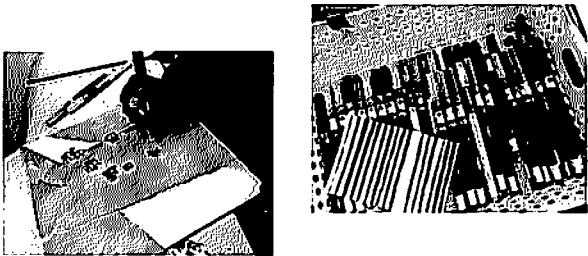
国語科書写の目標



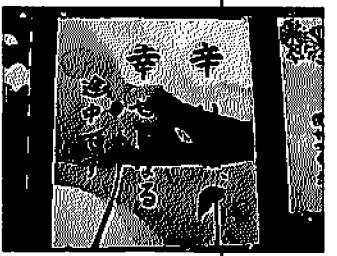
・楷書や行書の筆使いや字形に気をつけて書くことができる。 (技能)

美術科の目標

・材料、用具の特性を活かし、技法を工夫して丁寧で美しい作品を仕上げることができる。  
(創造的な技能)

(2) 展開 (4/5) T1:美術科教諭 T2:国語科教諭

時配	学習活動と学習内容	指導と支援 ○評価	資料
2	1. 前時までに考えた言葉に合わせた色紙の背景や、文字の書き方の下書きを見る。 2. 本時の学習課題を知る。	・どんなものを考えたか思い出すようにする。 T1	下書き用紙
3年間の学習を生かして、自分を励ます言葉を書こう。			
20 15	3. 色彩の計画をもとに、ポスターカラー、水彩絵の具、色鉛筆で背景をぬる。  4. 練習用紙をもとに、背景との調和・文字の大きさ・書体・配列・筆圧などに注意しながら、カラー筆ペンで文字を書く。  	○用具の特性を活かし、技法を工夫している。 (創造的な技能・観察・作品) T1 ・練習用紙に再度練習してから色紙に書くように指導する。T2 ・筆ペンの性質を活かすように伝える。T2 ○楷書や行書の筆使いや字形に気をつけて書くことができる。 T2 (技能/作品) ○楷書や行書の筆使い、字形を理解している。 T2 (知識・理解/作品)	絵の具 ポスターカラー 色鉛筆  練習用紙 カラー筆ペン
10	5. 作品に込めた思いや工夫したところを書く。  6. 作品を提出する。	・背景や文字の書き方で特に工夫した点を書くようにする。	プリント

			
3	7. 次回は、作品に込めた思いを伝えあい、相互の作品を鑑賞し合うことを伝える。		

#### IV 成果と課題

##### 仮説1について

- 相手意識・目的意識をもつことで、自己の目標が定まり、書くことに対して意欲的にとりくむ姿が見られた。相手に自分の作品をプレゼントすることにより、よりよい文字を書きたいという意欲が高まった。
- 普段は書くことが目的化してしまい、書いたものの出来によって意欲が低下してしまう児童もいた。しかし、相手意識をもって書き、自分の作品を大勢の他者が評価してくれることにより、文字を書く楽しさがわかり、書く意欲が高まった。また、理解したことをどう使っていくか考え、表現力が高まっていく児童も見られた。
- 他教科と関連を図ること、日常的に無理なく使用できる教具を使うことで児童の負担感・嫌悪感がなくなり、楽しみながら学習できることがわかった。
- 筆ペンを使用したことにより、筆の扱いに慣れ、毛筆学習での名前が上手になった。
- 書写の時間を楽しみにする児童が増え、書写に対する意識づけをすることができた。
- 第4～6学年でも同じ実践をし、どの学年でもよりよい文字を書きたいという意欲が高まったと感じる。学校全体を通しての実践をすることで、書写指導に対する教員の意識も高まり、お互いに協力し合いながら授業をすることができた。
- ▲ 表現力を高めるためには、児童にさらなる知識や技能が必要なことがわかった。筆使いや字形など、書写としての技能も身につけていかなければならない。
- ▲ 日頃の学習の中で、書写学習を生かす場面をどのように取り入れていくか、学習活動を考えていく必要がある。また、時数を確保していくために、内容を精選していく必要がある。

##### 仮説2について

- 国語に限らず、他教科と連携し、様々な活動の中に書写学習を取り入れることによって、生徒の書写への関心が高まり、書くことへの意欲に繋がった。
- 生徒たちは、筆記用具の特徴を生かしながら書くことを学び、背景との調和や書体の選択、字形などに気をつけながら自分たちで考えてとりくむことができた。
- 普段あまり使わないカラー筆ペンを使用し、書く楽しさを味わうことで、苦手意識・抵抗感を軽減させることができた。
- ▲ 作品の活用方法、掲示方法なども踏まえて、用具を選択する力をつける必要がある。
- ▲ 書写の日常化を図っていくために、教室の掲示物に手書き文字を取り入れたり、日頃からいつでも誰でも用具の選択ができる環境を整えたりして、働きかけていきたい。

# 資料編

①事後アンケート

②小学校の実践

③中学校の実践

④パワーポイント資料

【事後アンケート】(小学校第3学年 男子11名、女子20名)

1. 筆ペンを使って楽しく学習ができましたか。  
はい 31名 いいえ 0名
  
2. 筆ペンを使って大変だったことは何ですか。
  - ・字の太さ、はらうところ、止めるところ。
  - ・画数が多い漢字を書くこと。
  - ・筆ペンを使ったあとにきちんと乾かさないと作品がよごれてしまうこと。
  - ・筆ペンの持ち方。
  - ・文字が太くなってしまうこと。
  
3. また筆ペンを使って文字やメッセージを書きたいですか。  
はい31名 いいえ0名
  
4. 筆ペンを使って俳句を書いたり、地域の方に「ありがとう俳句」をプレゼントしたりした学習の感想を書きましょう。
  - ・書写の学習で、行の中心や漢字の大きさに気をつけて書くことがわかった。
  - ・筆ペンを使って初めて書いたけれど、とても楽しかったです。これからもたくさん使ってみたいです。
  - ・筆ペンを使って書いたら、自分の字がとてもおとなっぽく見えてかっこよかった。
  - ・俳句を筆ペンできれいに書けてよかった。それをプレゼントできてよかった。
  - ・俳句を地域のみなさんが喜んでくれてよかったです。
  - ・地域の方の笑顔が見られてよかったです。
  - ・いっぱい話して交流できたことがよかった。
  - ・筆ペンを使って書いた俳句を地域の方が「すごいね!」と言ってくれたことがうれしかったです。
  - ・ありがとう俳句を渡したらとても喜んでくれてうれしかったです。
  - ・地域の方に「字が上手だね〜」「よく書けているね〜」と言われたことがうれしかった。
  - ・地域の方にほめられてうれしかったです。

【カラー筆ペンを使用した生徒の感想】(中学校第3学年)

- ・楽しかったし、使いやすいなと思った。
- ・黒以外のカラーで書けるのが楽しい。筆に似た字が書けて良い。
- ・書く時、少し緊張したけれど、かっこいい字が書けてうきうきした気分になった。
- ・自分の筆ペンがほしいと思った。
- ・新聞が色鉛筆では出せない印象になり、鮮やかになった。
- ・おとなになったら筆ペンが使えたらかっこいいので、上手に書けるようになりたいと思った。
- ・たまには筆ペンで文字を書くのもいいなと思った。
- ・特に片付けがいらないので、気軽に使うことができた。
- ・コツを掴めば、すごくきれいに書けた。
- ・ボールペンなどとは違い、文字の書き始めの止めやはらいなどがでて、良いと思った。
- ・筆に比べると、力強さに欠けるので、筆でも書いてみたくなった。

- ・字が上手な人のような文字で書くことができた。
- ・間違えても消せないのが、大変だった。
- ・筆のような感覚で、力加減が難しかった。

【紹介：小学校第4～6学年での筆ペン活用の実践】

※3～6学年でも同様に自分の俳句や短歌を短冊に筆ペンで書くという実践を行った。

## 実践3（小学校）

### 3 学年 国語科書写・総合的な学習の時間指導案

指導者 佐倉市立白銀小学校 関 亮子

#### 1. 単元名 書いてつたえよう「ちとせ小町のみなさんへ」

#### 2. 単元について

##### (1) 単元観

本単元は、新国語科学習指導要領の目標〔知識及び技能〕(3)【我が国の言語文化に関する事項】エ 書写に関する事項「(ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。(ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。」を受けて設定したものである。

本校では、3 学年は総合的な学習の時間に地域の高齢者福祉施設「ちとせ小町」において、施設を訪問し、交流会を行っている。ちとせ小町では、3 学年の交流以外にも合唱部のクリスマスコンサートやちとせ小町主催の秋祭りでの交流などが行われている。児童たちは、ちとせ小町のお年寄りとの交流を楽しみにし、またちとせ小町の職員の方・お年寄りは児童を喜んで受け入れてくださっている。学校と地域施設が児童とお年寄りという立場で盛んに交流できている現実があり、このことは双方にプラスの働きを与えている。

本単元では、3 学年になって初めての総合的な学習の時間で、ちとせ小町のお年寄りに交流会で自分たちの気持ちを伝え、喜んでもらうためにはどうしたらよいかを話し合い、活動を考えていく。

その中で、自分たちの気持ちを伝えるという点で筆ペンを使用し、ちとせ小町の高齢者の方にメッセージカードや俳句を作成するという活動を取り入れる。このことにより、自己の言葉や文字をよりよく書き、相手意識をもって伝える力を育成したい。「文字」をもって伝えること、その文字をどのように書いたら相手によりよく伝わるかを考える時間をもち、児童の思いが伝わるようにしたい。

日常生活の中で、全教科を通して行っている「文字を書く」活動であるが、ちとせ小町のお年寄りに自分たちの気持ちをよりよく伝えるために「書く」という目標をもち、活動させたい。また、文字をよりよく書こうとする態度を育て、文字の「伝達」「つなぐ」「文字によって交流できる」というはたらきを体感させたい。そのために、自分の思いをしっかりと考え、伝えられる時間をしっかりとりたい。また、ちとせ小町のお年寄りと鑑賞する時間を長めにとり、「自分が書いた文字が相手に思いを伝えている」と感じられる時間を確保したい。

児童たちがこの地域社会に関わっていくことは、とても意義深いものである。児童たち自身も高齢者の方々と接することで、お年寄りに優しくする気持ちをもつとともに、自分がかげがえのない命をもった存在であること、皆で支え合って生きていること等にも気づかせたい。

#### 3. 単元の目標

- ・相手に向けて、学習経験や生活経験を生かし、相手のことを考え、自分が伝えたい言葉や文字を考えることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・鑑賞会を通し、言葉や表現について感想をもつことができる。 (日常化)


学 習 活 動	時配
○筆記用具（筆ペン）の特徴を知り、文字を練習することができる。	1
○施設を訪問する前に高齢者のことを考え、メッセージカードを作成する。	1
○ちとせ小町に交流に行く。（折り紙・メッセージカード交流）	2
○施設を訪問し、高齢者の方へ向けたメッセージカード・俳句づくりを行い、仕上がったメッセージカード・俳句の鑑賞会を行う。	1 (本時)
○ちとせ小町訪問をふり返り、気づいたことや感想を書く。	1

## 5. 本時の指導

### (1) 目標

- ・学習経験や生活経験を生かし、相手のことを考え、自分が伝えたい言葉や文字を考えることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・鑑賞会を通し、言葉や表現について感想をもつことができる。 (日常化)

### (2) 展開 (5/6)

時配	学習活動と内容	指導・支援 ○評価	資料
5	1. 本時の学習内容を知る。  2. グループごとに自己紹介・はじめの会を行う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ちとせ小町のお年寄りに自分の思いを筆ペンで書いて伝え、交流しよう。</div>	・前時の学習から本時の内容を確認する。	グループごとの進行表
25	3. メッセージカードづくり・俳句づくりを行う。 (1) 筆ペンを使って文字を書く。 (2) 絵を描く。色ぬりをする。 	・ちとせ小町のお年寄りと会話をしながら進めることを確認する。  ・同じグループの友だちと話しながら進める。  ○筆ペンを使用し、相手に向けてていねいに書くことができたか。 (関心・意欲・態度/活動・作品)	作品用紙 筆ペン 色鉛筆 サインペン
10	4. 鑑賞会・作品プレゼントをする。 (1) 自分がどのような思いでつくったかを発表する。 (2) ちとせ小町のお年寄りにプレゼントする。 (3) ちとせ小町のお年寄りから感想をいただく。	・どのような気持ちで作成したのか言葉にして伝えられるように助言する。  ○鑑賞会・作品プレゼントを通して、言葉や表現について感想をもつことができたか。(日常化/発表)  ・児童の書いた字や言葉から、筆ペンを使用して書いた手書き文字の	





- 5 5. グループごとに終わりの会をする。
- ・今日の交流会全体を振り返って1人ずつ感想を発表する。
  - ・終わりの言葉を言う。

よさや字や言葉を通して交流することのよさを確認する。

- ・ちとせ小町のお年寄りに作品をプレゼントする。

- ・日常生活の中でも、手書き文字のよさを生かし、積極的に取り入れるようにしていくことを伝える。

○単元の学習後も、継続してちとせ小町のお年寄りに向けて手紙を書き、放課後に手紙を届ける児童もいた。

実践4（中学校）【略案】

**国語の授業×書写**

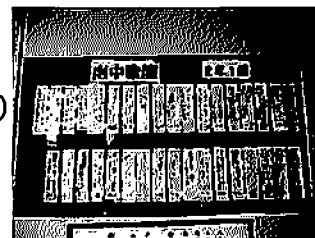
第1・2・3学年 国語科書写指導案

「修学旅行の思い出を俳句・短歌で詠み、筆ペンで短冊を書こう。」

指導者 佐倉市立臼井南中学校 佐々木育美

(1) 本時の目標

- ・行書と仮名の調和と配列を理解して書くことができる。(知識・技能)



(2) 展開の流れ（1時間扱い）（第3学年の例）

時配 (分)	学習活動と学習内容	指導と支援 ○評価	備考
導入 5	1. 学習の目標と流れを理解する。  修学旅行の思い出を俳句・短歌で詠み、筆ペンで短冊を書こう。  作るときのポイントを押さえる。 季語、切れ字の使い方、省略、字 余り、字足らずなど。	・学習目標を板書し、1時間の見通 しを持たせる。  ・例を挙げながら、今まで学習した 表現方法を復習させる。	プリント
展開 35	2. 修学旅行を振り返り、思いつく 語句をたくさん書く。  3. 書き出した語句の中で、特に思 い出深い3つの語句を選び、丸を つける。  4. 3つの語句から話題を広げる。 (例) 清水寺→人が多い、外国人 5. 俳句、短歌を作成する。  6. 短冊に筆ペンで俳句を書き、掲 示する。	・時間を決めて、ストップウォッチ で測り、いくつ書けたかをゲーム 感覚で競わせる。 ・机間指導をし、手が止まってい る生徒には、3日間の行程 など、振り返りをさせるなど助言 する。 ・情景をより詳しく書くように指導 する。 ・同じ内容でも、語句を入れ替え たり、違う言葉を使ったりして推敲 させる。 ・バランスや大きさを考え、読みや すく書くように指導する。  ○行書と仮名の調和と配列を理解し て書くことができる。 (知識・技能/作 品)	プリント ストップ ウォッチ       筆ペン 短冊
まとめ 10	7. 学級の仲間の短歌、俳句を読み 合い、投票して金賞を決める。	・季語や表現方法に注目して選ぶよ うに指導する。	プリント

実践5（中学校）【略案】

**総合的な学習の時間×書写**

第3学年 国語科書写・総合的な学習の時間指導案

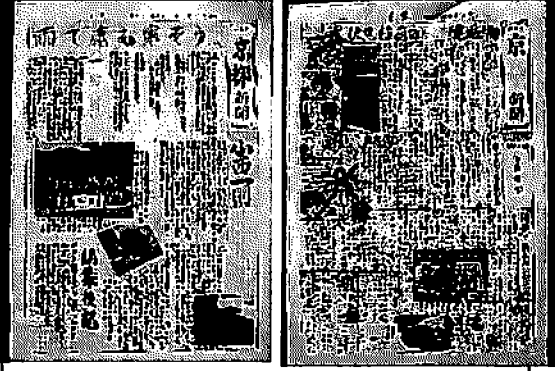
「修学旅行の個人新聞をつくらう」

指導者 佐倉市立臼井南中学校 佐々木育美

(1) 本時の目標


- ・見る人の目を引くような新聞をつくるために、記事の配置や見出しの書き方を工夫し、書くことができる。(技能)

(2) 展開の流れ（3時間扱い）

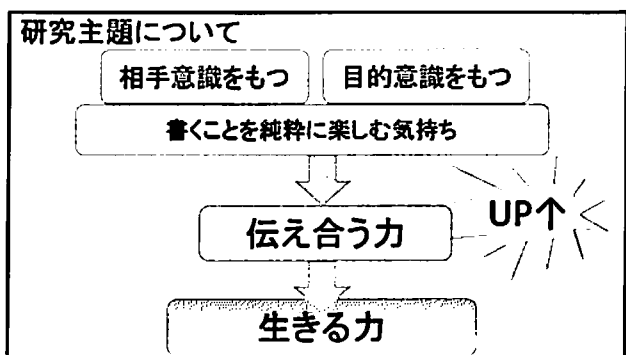
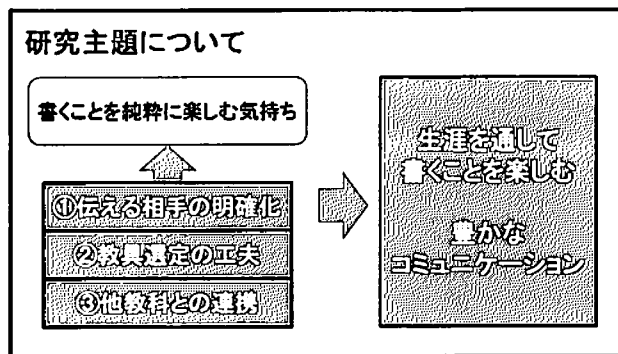
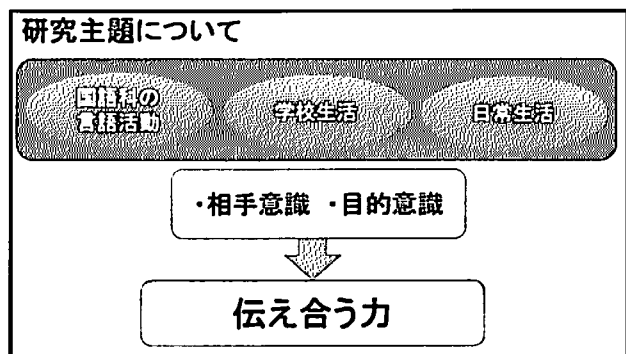
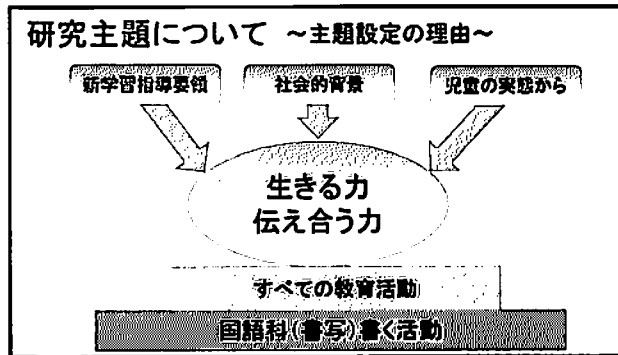
時配 (分)	学習活動と学習内容	指導と支援 ○評価	備考
導入 25	1. 単元の目標を知る。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">修学旅行の個人新聞をつくらう。</div> 2. 新聞の構成を考える。 3. 見出しのバランス、内容、写真、四コマ漫画、クイズなど書く内容を考える。		
展開 60 60	4. 下書きをする。 ・鉛筆で下書きをする。 5. 本書きする。 ・ボールペンで清書する。 ・新聞名、見出しはカラー筆ペンを使用する。 ・見る人の目を引くように効果的に書く。	・例を提示して、構成の参考にさせる。  ・机間指導して助言する。  ・新聞全体と文字の調和を考えながら、文字の大きさ、書体、色を考えるように指導する。	写真 構成メモ  台紙 カラー筆ペン ボールペン 色鉛筆
まとめ 5	6. 掲示する。  	○見る人の目を引くような新聞を完成させることができたか。 (技能/新聞)	掲示フォルダー

### 生きる力を育む書写教育のあり方

—相手意識・目的意識をもって伝え合う力の育成をめざして—



佐倉市立白根小学校 岡亮子  
佐倉市立日井南中学校 佐々木育美



### 研究仮説

**【仮説①】**  
伝える相手を明確にしたり、教具の選定を工夫したりすれば、書くことを楽しみ、進んで書く意欲をもち、取り組むことができるだろう。

**<手だて>**

- 1 国語科・総合的な学習の時間の学習と関連させ、伝える相手を明確にする。  
・クラスの友達 ・地域の方々 ・ちとせ小町のお年寄り
- 2 日常的に簡単に扱える教具「毬ペン」の使用

### 研究仮説

【仮説②】  
他教科との連携を図り、書写の学習を活用する場面を設けることで、書写への意識が高まり、学習したことを日常での書字活動にも生かすことができるだろう。

<手だて>  
○他教科の学習活動と連携して書写の学習を設定する。  
・書写での既習内容を想起させる声かけ・評価  
○筆ペンの活用

### 研究の実際

【仮説①】  
伝える相手を明確にしたり、教具の選定を工夫したりすれば、書くことを楽しみ、進んで書く意欲をもち、取り組むことができるだろう。  
→小学校

【仮説②】  
他教科との連携を図り、書写の学習を活用する場面を設けることで、書写への意識が高まり、学習したことを日常での書字活動にも生かすことができるだろう。  
→中学校

### 研究の実際

・授業実践 第3学年 日本語のひびきにふれよう「俳句に親しむ」  
新学習指導要領  
第1学年及び第2学年で水書用筆等を使用した選筆指導を取り入れるなど、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための円滑的な工夫をすることが示された。  
水書用筆等を使用する指針は、第3学年から始まる糸道を使用する書写の指針への移行を円滑にすることにもつながる。第2学年までの水書用筆の使用を受けて、筆ペンを取り入れることで硬筆と毛筆の関連的な指導ができると考えた。

### 研究の実際

・授業実践 第3学年 日本語のひびきにふれよう「俳句に親しむ」

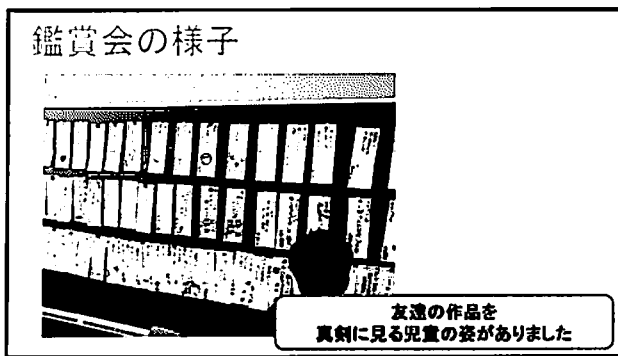
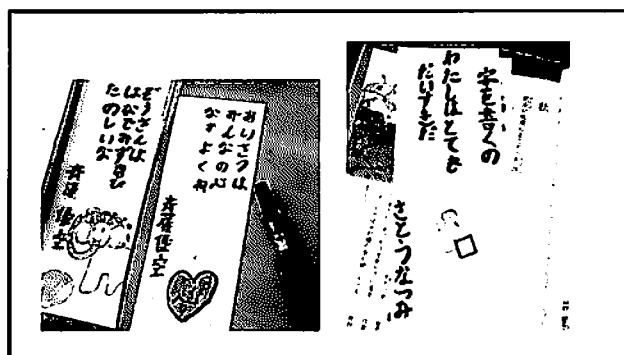
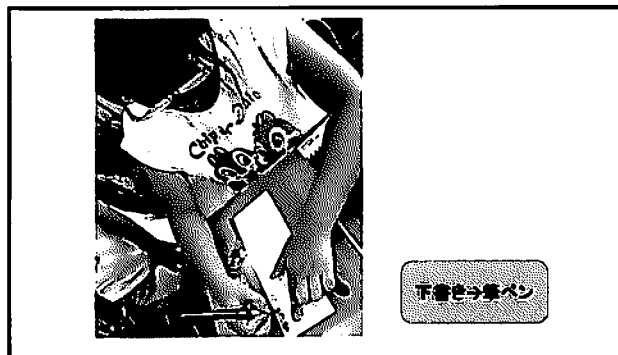
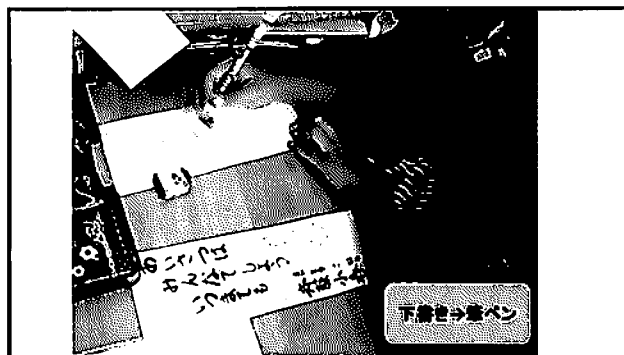
### 研究の実際

・授業実践 第3学年 日本語のひびきにふれよう「俳句に親しむ」

### 研究の実際

・授業実践 第3学年 日本語のひびきにふれよう「俳句に親しむ」

本時の目標  
「漢字や仮名の大きさや行の中心を理解して、気をつけて書くことができる。」



鑑賞会の様子



鑑賞会の様子



授業での発表会



国語の授業で、俳句の発表会を行いました。他教科との関連

授業での発表会 ~ありがとう俳句~



国語の授業で、俳句の発表会を行いました。他教科との関連

研究の実際

・授業実践 第3学年 日本語のひびきにふれよう「俳句に親しむ」

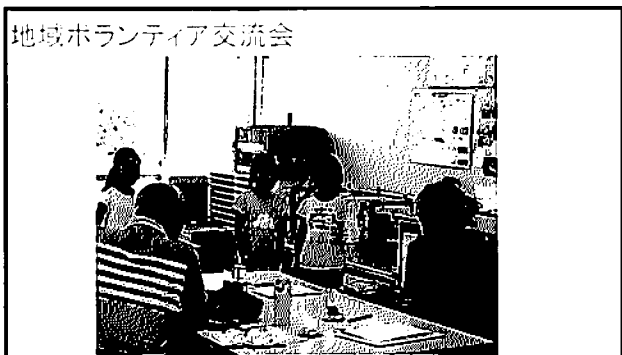
第2時の目標

「書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていこうとする意欲をもつことができる。」



地域ボランティア交流会







地域ボランティア交流会



地域ボランティア交流会



4～6学年での実践

日本語のひびきにふれよう

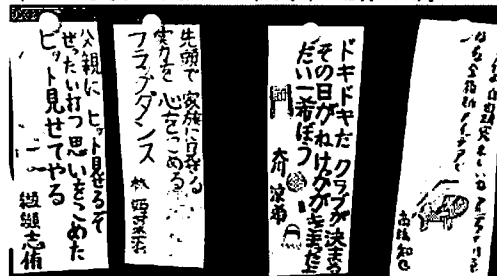
第4学年「短歌の世界」



4～6学年での実践

日本語のひびきにふれよう

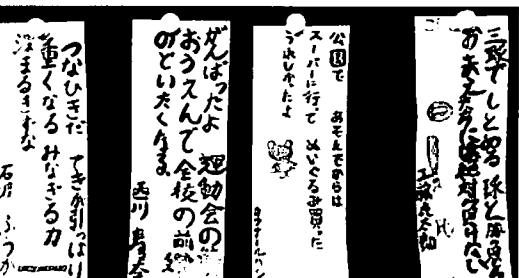
第4学年「短歌の世界」



4～6学年での実践

日本語のひびきにふれよう

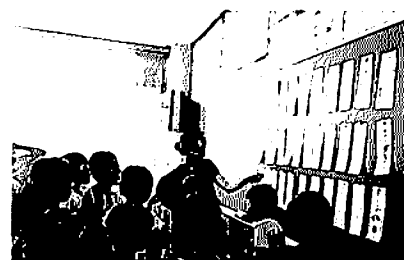
第4学年「短歌の世界」

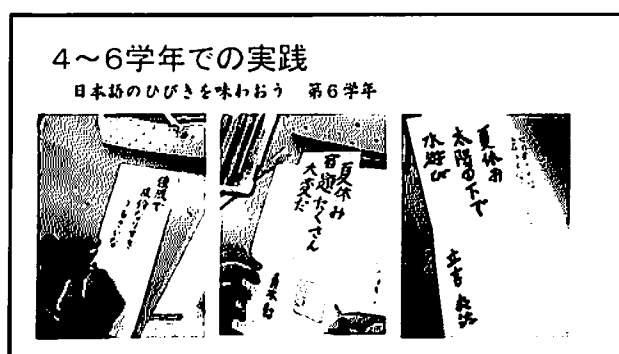
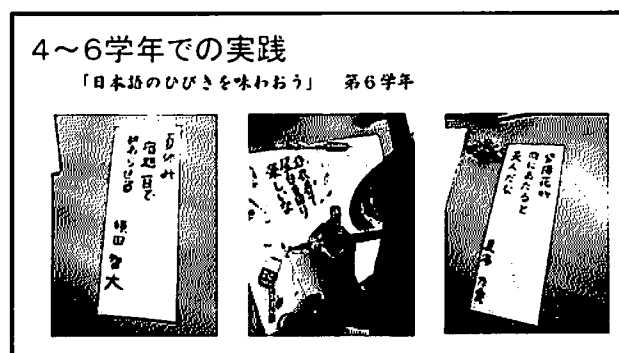


4～6学年での実践

日本語のひびきにふれよう

第4学年「短歌の世界」





**研究の実際**  
 日井南中学校 生徒の実感

好き・やや好き

- ・音段とは違う字が書ける
- ・日本の伝統文化を感じる
- ・カッコいい字が書ける

格差

あまり好きではない  
好きではない


- ・手間がかかる、汚れる
- ・下手、苦手
- ・慣れていないので書きにくい

**研究の実際**

日頃の書写学習を日常化させること

手だて

- 様々な授業の活動に、書写学習を取り入れる
- カラー筆ペンを使用する



**研究の実際**  
 【仮説2】に対する授業実践 中学校  
 第3学年 美術×書写 の連携

美術科 「自分を励ます言葉の色紙づくり」

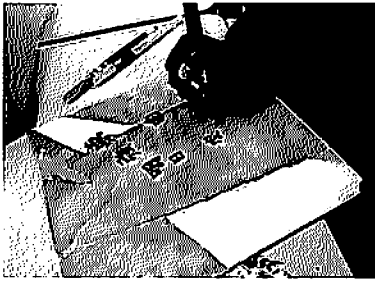
+

国語科書写  
 「身のまわりの多彩な文字に関心をもち、効果的に文字を書こう 三年間の学習の成果を生かそう」

今までの書写学習を生かして主体的に取り組める

**研究の実際**

- 【美術】言葉選び
- 【美術】色彩計画  
【書写】文字構成  
大きさ・配列・筆圧・書体  
など
- 【美術・国語】  
作品制作
- 【美術】鑑賞会



**研究の実際**

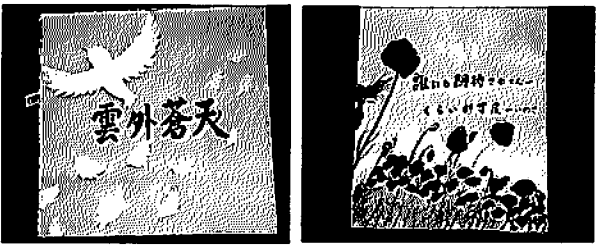


どの色が  
いいかなあ。

この字、  
上手く書けた！

**研究の実際**

生徒の作品



**研究の実際**

授業以外の掲示物づくりなどに、自ら筆ペンを使用していた。

**研究の実際(資料編)**

・授業実践 第3学年 書いてつたえよう「ちとせ小町のみなさんへ」

**研究の実際(資料編)**

・授業実践 第3学年 書いてつたえよう「ちとせ小町のみなさんへ」

**研究の実際(資料編)**

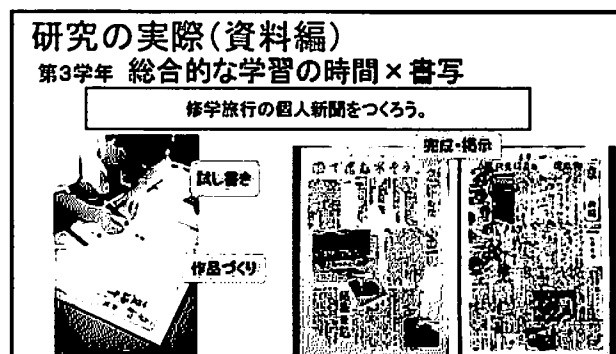
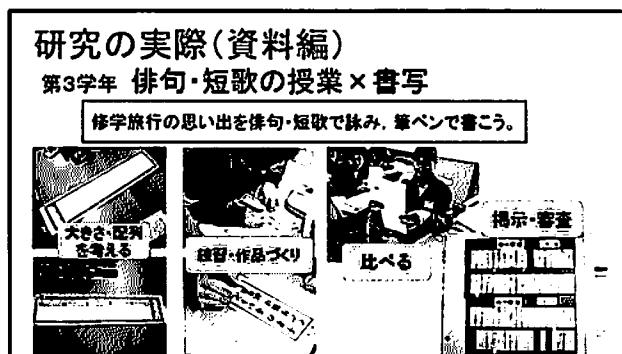
・授業実践 第3学年 書いてつたえよう「ちとせ小町のみなさんへ」

**研究の実際(資料編)**

・授業実践 第3学年 書いてつたえよう「ちとせ小町のみなさんへ」

**研究の実際(資料編)**

・授業実践 第3学年 書いてつたえよう「ちとせ小町のみなさんへ」



**成果と課題【仮説1】**

**成果**

- 相手意識・目的意識をもつことで、自己の目標が定まり、書くことに対して意欲的に取り組む姿が見られた。相手に自分の作品をプレゼントすることにより、よりよい文字を書きたいという意欲が高まった。
- 普段は書くことが目的化してしまい、書いたものの出来によって意欲が低下してしまう児童もいた。しかし、相手意識をもって書き、自分の作品を大勢の他者が評価してくれることにより、文字を書く楽しさがわかり、書く意欲が高まった。また、理解したことをどう使っていくか考え、表現力が高まっていく児童も見られた。

**成果と課題【仮説1】**

**成果**

- 他教科と関連を図ること、日常的に無理なく使用できる教具を使うことで児童の負担感・嫌悪感がなくなり、楽しみながら学習できることがわかった。
- 筆ペンを使用したことにより、筆の扱いに慣れ、毛筆学習での名前が上手になった。
- 書写の時間を楽しみにする児童が増え、書写に対する意識づけをすることができた。

**成果と課題【仮説1】**

**成果**

- 第4～6学年でも同じ実践をし、どの学年でもよりよい文字を書きたいという意欲が高まったと感じる。学校全体を通しての実践をすることで、書写指導に対する教員の意識も高まり、お互いに協力し合いながら授業をすることができた。

**成果と課題【仮説1】**

**課題**

- ▲表現力を高めるためには、児童にさらなる知識や技能が必要なことがわかった。筆使いや字形など、書写としての技能も身につけていかなければならない。
- ▲日頃の学習の中で、書写学習を生かす場面をどのように取り入れていくか、学習活動を考えていく必要がある。また、時数を確保していくために、内容を精選していく必要がある。

## 成果と課題【仮説2】

### 成果

- 国語に限らず、他教科と連携し、様々な活動の中に書写学習を取り入れることによって、生徒の書写への関心が高まり、書くことへの意欲に繋がった。
- 生徒たちは、筆記用具の特長を生かしながら書くことを学び、背景との調和や書体の選択、字形などに気をつけながら自分たちで考えて取り組むことができた。
- 普段あまり使わないカラー筆ペンを使用し、書く楽しさを味わうことで、苦手意識・抵抗感を軽減させることができた。

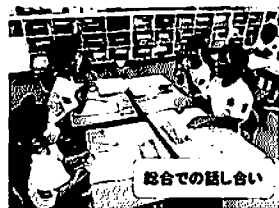
## 成果と課題【仮説2】

### 課題

- ▲ 作品の活用方法、掲示方法なども踏まえて、用具を選択する力をつける必要がある。
- ▲ 書写の日常化を図っていくために、教室の掲示物に手書き文字を取り入れたり、日頃からいつでも誰でも用具の選択ができる環境を整えたりして、働きかけていきたい。



中心・配置に気を付けて書きました



総合での話し合い

ご清聴ありがとうございました。